

## 小児科（4週）

### 研修の目標

小児科における基本的な考え方及び技術を身につける。

一般病院の小児科で多く経験する、遭遇する機会の多い疾患を中心に幅広く経験を積み、その中で重症患者や専門的医療を要する疾患を見抜く力を養う。

### 研修の課程

#### （1）外来患者について

外来患者を担当、実施研修し、一般外来患者の適切な処理能力をつける。

成長・発達・栄養の評価及びその指導（乳児健診など）

小児の保健（健常児の養護、保健指導、予防接種、虐待など）

小児精神・神経症

先天異常（家族のサポート、遺伝相談など）

#### （2）入院患者について

入院患者の主治医の指導のもと、診察・病歴を作成記録する。

対象疾患

新生児・低出生体重児

感染症、アレルギー疾患

発育・栄養障害、先天異常、消化器、循環器、代謝・内分泌、泌尿器、呼吸器、神経・筋

#### （3）救急患者について

急性疾患や事故などについて、緊急性の高さの判断や必要な対処の方法を学ぶ。

### 研修の具体的目標

#### （1）ぜひ修得すべき事項

①病歴の取り方（問診、記載法など）

②小児の診察法（年齢に応じた子供の扱い、理学所見の取り方）

③よく行う一般的検査

1. 身体計測（身長、体重、頭囲、胸囲など）

2. 尿検査（一般沈渣など）

3. 便検査

4. バイタルサイン（体温、脈拍、呼吸数、血圧）

5. 採血手技の修得

6. ツベルクリン反応

④その他の一般検査（実際の検査手技を含まないものもある）

1. 尿検査（時間尿量、蛋白・糖などの定量）

2. 血液学的検査

（出血時間、凝固時間、骨髓穿刺、骨髓像、血液型判定など）

3. 導尿

4. 浣腸（高圧浣腸を含む）

5. 腰椎穿刺および髄液検査

6. 細菌学的検査（培養検体の採取法、溶連菌迅速診断法など）

7. 動脈血採血法と動脈血ガス分析

8. 胸部X線学的検査および読影
9. 腹部および消化管のX線学的検査および読影
10. 肛門、直腸指診察
11. 腹部および体表の超音波検査の実施と解釈
12. 心電図（標準、負荷、ホルター）の実施と解釈
13. 頭部の画像診断
14. アレルゲンの検索

⑤ 一般的治療法

1. 小児における薬剤の使い方（年齢による薬用量）
2. 注射手技の修得（皮下、皮内、筋および静脈内）
3. 小児輸液の実際と管理
4. 救急処置法
5. 腸重積の非観血的整復法
6. 鼠径ヘルニアの徒手整復法
7. 各種伝染病の診断と取り扱い

⑥ 栄養

1. 母乳および人口栄養の実際的知識
2. 離乳の実際
3. 経管栄養法
4. 治療食の実際

⑦ 新生児の取り扱い

1. 正常新生児の取り扱い
2. 病的新生児、低出生体重児の取り扱い

⑧ 成長、発達

1. 正常小児の身体および精神発達の基礎的知識の修得
2. 各年齢における育児相談、健診の実際

⑨ 簡単な鎮静、麻酔法

(2) 研修中に経験・修得したい疾患

① 感染症

1. ウイルス性  
麻疹、風疹、突発性発疹症、水痘、流行性耳下腺炎、伝染性単核症、インフルエンザ、無菌性髄膜炎など
2. 細菌性  
溶連菌感染症、化膿性髄膜炎、急性中耳炎、ブドウ球菌感染症、百日咳、細菌性腸炎、薬剤耐性菌感染症、結核など
3. その他の感染症  
クラミジア、マイコプラズマ、寄生虫、真菌感染症など

② アレルギー疾患および膠原病

気管支喘息、アトピー性皮膚炎・食物アレルギー、蕁麻疹、アレルギー性紫斑病、川崎病、JRA、SLE など

③ 栄養障害

肥満、るいそうなど

④消化器疾患

腸重積症、急性虫垂炎、肥厚性幽門狭窄症、胆道拡張症、胆道閉鎖症、乳児下痢症など

⑤呼吸器疾患

クループ症候群、急性細気管支炎、急性気管支炎、肺炎など

⑥循環器疾患

先天性心疾患

後天性心疾患

⑦泌尿器疾患

尿路感染症、尿路奇形、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群など

⑧血液腫瘍性疾患

鉄欠乏性貧血、溶血性貧血、ITP、再生不良性貧血、白血病、神経芽細胞種、ウイルス腫瘍など

⑨神経および筋疾患

てんかん、熱性痙攣、脳腫瘍、急性脳炎／脳症など

⑩内分泌代謝疾患

成長ホルモン低分泌性低身長、若年性糖尿病、甲状腺機能亢進症および低下症、アセトン血性嘔吐症、ケトン血性低血糖症、先天性代謝異常症など

⑪新生児疾患

低出生体重児、新生児仮死、低血糖、呼吸障害、痙攣、黄疸など

評価方法

自己評価、指導医評価を3段階で行う。